

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・千葉・大西<sup>b</sup>・浅野<sup>c</sup>、吉田(ひ)<sup>c</sup>、吉田(亨)<sup>c,d</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- 概算要求書を事務の協力を得て作成中。
- VBL の運営委員会において、VBL 非常勤研究員として吉田、浅野の継続と古立氏、CHEN 氏の着任が承認された。また、PLOSZAJCZAK 氏の招聘 7~8 月が承認された。  
(以上、加藤)
- 採録関連: 前回送信時からの作業分 125 編を EXFOR へ 1 月 31 日付で送信した。
- DUNAEVA 氏により 2007 年度未採録論文リストが公表された。jcprg 未採録論文 3 編について大塚氏が回答した。
- 対称、非対称誤差を出力するときに NRDF 独自の入力データを作るかどうかの検討をする。
- 大塚氏からの引継ぎの分担、マスター変更、ファイル送信、Web 更新、新規論文の分担表への追加などについて検討していく。
- 椿原、菊池、松宮が今年度入力したデータについてデータファイルのチェックを行う予定。(以上 吉田ひ)
- (D0828 於)  $E_{in}+Q(x,y)$  のような全エネルギーを横軸とするデータの扱いについて。ただし、 $E_{in}$  は入射中性子エネルギー、放出中性子陽子の多重度は  $x,y$ 、 $Q$  は反応の  $Q$  値。横軸のエネルギーの代わりに多重度  $x$  をデータとして採録することにした。

3: 議論

- 浅野の提案に対して「Errata、comment、reply などの付加的な論文に載っているデータについては、著者の要請があれば、独立した論文としてではなく secondary reference として採録することができる」こととした。(承認。)
- MIN/MAX と LB/UB は別コードで扱う。(承認。)
- 数値 0.003(0)などの表示での誤差 0.000 の扱い。  
0.000 のまま、有効数値に関するコメントを入れるという案に決定。(承認。)
- 有効数値が統一されていない場合。  
著者から送られてきたデータは著者の承諾を経てコーディング者が有効数字を揃える。(承認。)
- エラーバーがプロット点に隠れて見えない時のデータの数値読み取りに関して。

エラーとして推定される最大のサイズである、プロット点の半径で代用し、コメントを付ける。(承認。)

- 新規修正コード

ARS-DET に変えて ANGLRS を登録し ANGLRS-DET を用いる。(承認。)

4: 次回予定

2008 年 3 月 31 日 18:00~